

# 市民ボランティアの得たもの

金平 三雄

2002ワールドカップ  
横浜ボランティアの会事務局長

## ① 市民ボランティアの得たもの

**あ**の興奮と感動からはや1年以  
上が経った。世界の耳目が、  
昨年6月30日(日)に行われたドイツ  
とブラジルの決勝会場「横浜国際総  
合競技場」に集まり、横浜という名  
前が多くの人たちの胸に刻み込まれ  
たと思う。

私は、このワールドカップに横浜  
市が募集したボランティアの一員と  
して活動に参加し、サッカーそのも  
の楽しさや一緒に活動したボラン  
ティアの方々との交流を思い浮かべ  
ながら、あのワールドカップをもう  
一度振り返って見ることにした。

## ② ボランティアに応募した動機と ワールドカップとの縁

**私**は、1975年にエンジニア  
リング会社に入社し、2000  
年に同社を退社するまで、2度の  
海外勤務の経験があった。仕事柄、  
赴任地はいずれも中東であり、入社  
して10年後にサウジアラビア、20年  
後にカタールと10年ごとに海外勤務  
を体験した。赴任期間はそれぞれ1  
年半から2年、延べ3年半の海外生  
活であったが、その国の人たちや一  
緒に仕事をしたその国以外の同僚た

ちとの交流を通じて、「日本」「日  
本人」というものを意識する機会を  
得ることができた。ボランティアへ  
の応募は、偶然、市の広報で通訳ボ  
ランティア募集を知り、ワールドカ  
ップやサッカーに関して特別な意識  
も持たず、ただ何かできるだろうか  
という単純な気持ちで応募したのが  
きっかけだった。運良くメンバーに  
登録され、市がボランティアの人た  
ちに求めたものは、「ようこそ横浜  
へ」をスローガンに「ホスピタリ  
ティ」マインドをもって横浜に来る人  
たちをお迎えしようということであ  
り、私自身も研修を重ねるにつれて、  
「何か人の役に立とう」という意識  
が芽生えるようになった。

余談だが、ワールドカップが近づ  
くにつれ、特別なサッカーファンで  
もない私が不思議とワールドカップ  
に縁があることに気が付いた。1つ  
目は、初めての海外勤務国サウジア  
ラビアのチームが横浜で試合をする  
こと、2つ目は、93年「ドーハの悲  
劇」が起こったあと1か月も経たな  
いうちにカタールを出張で訪問した  
こと、3つ目は、日本のチームがワ  
ールドカップ出場をかけた最終試合  
対イラン戦(ジヨホールバルの歓

喜)を観戦する同僚たちがバスに  
乗って出かけるところを、たまたま  
出張で滞在したマレーシアのマラッ  
カで見送ったこと、いずれも在職時  
に、海外赴任・出張した国とワール  
ドカップが関係していた。

## ③ ボランティア活動

**5**月31日の韓国での開幕戦から  
6月30日の横浜での決勝戦ま  
で、11回の活動を行った。活動場所  
は、桜木町・横浜駅にある観光案内  
所、YCAT、横浜国際総合競技場  
で試合がある日の主要駅出口であ  
り、ワールドカップの観戦目的で来  
訪する人々には、国際総合競技場  
への交通、チケット販売、パブリッ  
ク・ビューイング、スポーツカフェ、  
ネットカフェ、宿泊所などの案内が  
主な活動であった。交通案内は電車  
(横浜線、地下鉄)の乗り場案内、  
料金、乗り換えの有無を説明したり、  
訪問者が行きたい場所を説明したり  
することが中心だった。これらの活  
動の中で対応に困った事例を2つ紹  
介すると、いずれも決勝戦が行われ  
た6月30日の出来事だった。1つ目  
は、桜木町駅の出札口において、ド  
イツ人の家族が出札口を通過する際

に切符の提示をもとめたところ、5  
日間有効のフリーパス切符を提示し  
てきた。しかし、その切符は前日で  
失効していたため、当然ながら料金  
の支払を求めたところ、支払を拒否  
された。理由は、夜9時に成田空港  
でその切符を購入したが、発券は購  
入日から5日間のものを買わされた  
ため、正確に計算すると今日の午後  
8時59分までは5日間の効力がある  
のだから、この切符は有効であると  
主張してきたこと。2つ目は、同じ  
く桜木町観光案内所でのことだっ  
た。時間帯はキックオフの20時数分  
前に、1人の  
ご婦人から、  
駅前の大型ス  
クリーンでの  
放映はこれか  
ら始まるのか  
と質問を受け  
たことであ  
る。その方は、  
当然のように  
市が市民のた  
めにこれから  
始まる決勝戦  
をこのスクリ  
ーンで放映す

るものと思い、それを見るためにわ  
ざわざ出かけてきたと話始めた。確  
かに、この桜木町広場に設置してい  
る大型スクリーンに関する質問はそ  
れまで数多くあり、放映できない理  
由をその方にも説明したが、なかな  
か納得して頂けず、しまいには市の  
職員に直接話したいと申し入れ  
てこられた。この2つの事例は、い  
ずれもそのときは相手の状況を考え  
ながら誠意をもって説明し、幸い大  
きな問題とならずに対処することが  
できた。



桜木町観光案内所にて

#### ④ ボランティア活動を通して

1

か月間の活動、研修を含め約1年間の活動を行った。横浜には様々な言葉でコミュニケーションのとれる人たちが多くいて、その人たちと交流できたことがまず貴重な体験だった。通訳ボランティアは



2002ワールドカップ横浜ボランティアの会世話人会メンバー

約700名の老若男女が集まり、高齢の方で70歳後半、最年少が18歳、民間企業を退職され退職後の時間をいくつかのボランティア活動に従事している方、数カ国語を駆使される方、極めて多士済済の方が横浜に住み、ワールドカップという世界の多くの人が注目するイベントに積極的に身を投じて活動されたことに感謝を受けた。また、案内誘導や美化推進で活躍した一般ボランティアの方達約600名を含めると、約1300名の人たちが、ホスピタリティマインドで「ようこそ横浜へ」を実践したことになった。このワールドカップのボランティア活動は、7月28日に行われた解散式をもって最後の活動となったが、その後ボランティア活動の記録集や市の公式開催記録

「感動を横浜から世界へ」の出版、ボランティア活動記念パネル展示会の開催など、活動に参加したボランティアの意識の中には、「あの感動をもう一度」「このまま終わるのはもったいない」「他に何かできることがあるのでは」といった声も沸きあがり、有志による発起人会設立、そして「2002ワールドカップ横浜ボランティアの会」発足へ繋がっていった。

#### ⑤ 2002ワールドカップ横浜ボランティアの会の発足

の会は、横浜国際総合競技場で行われた決勝戦から1年経過した、今年の6月29日に設立総会を開き、会員約400名の会として正式に発足をした。この会は、横浜

や横浜市に関わる活動に主体をおいた会であり、10月19日開催の「エコ1・ウォーカーソン2003」EYokohama」、横浜国際総合競技場運営ボランティア、観光ボランティア、東アジアサッカー選手権やトヨタカップの案内ボランティアを含めて、いくつか具体的な活動に取り組んでいる。特に、東アジアサッカー選手権は、当初予定していた5月に合わせ準備を行っていた。本会設立前の活動計画にもかかわらず、約200名の方から参加申し出があり、その動員、配置計画などすでに準備が完了しており、本番に向けて詳細計画の練り直しを行っている。また、今後予定される開港150年祭に関わる行事、世界ベテランズ卓球選手権大会、今後横浜で行われるイベントについても、本会では話題になっ

#### ⑥ むすび

私

個人としては、「何かできるだろうか」から「何か人の役にたつ」という意識の変化が一番大きな収穫だったが、「FIFAワールドカップ2002」に一緒に活動したボランティア仲間が横浜市民としての向上と横浜市の発展に「何か役に立つ」という目的の会に繋がったのが最大の収穫であると考えている。会が正式に立ち上がってまだ4か月足らずだが、読者の皆様のおかげでは、スポーツ、文化交流など横浜に関係するイベントのお話があれば、いつでも本会に声をかけて頂くことを願っている。